

第二 戸籍照較

第三 質問

第四 送籍地調査

第一 戸籍点檢

戸籍点檢ハ各町村戸籍簿毎葉ヲ調査シ其年適齡者其他常備年期間身上異動者ニシテ除籍死亡ハ勿論其常備年期間ノ異動者ニ非ラサルモノト雖トモ苟モ徴兵ニ関シ嫌疑アルモノハ悉ク戸籍ニ凡ソ堅ニ二寸巾五分ノ片紙ヲ貼付スルノ法ナリ抑モ之ノ付箋ヲナスハ脱漏者ナカラシム手段ニシテ最モ緊要トス之ヲ敷衍スルニ此方法ヲ施サ、レハ到底其事務ヲ全フスルコトヲ得ズ然レトモ戸籍照較ハ徴兵事務条例ニ単ニ戸籍照較スヘキ明文アルノミニシテ之カ方法ヲ示サ、ルヲ以テ其方法密ナルトキハ照較ノ効アルモ若シ其方法宜キヲ得サルトキハ其脱漏者ヲ防クコト能ハス聞ク処ニ拠レハ他府県ノ如キハ其方法ヲ異ニシテ調査上大ニ精粗アリト今本県経歴上ノ事件ト点檢上着目スル処ヲ概述セン是徴集者ヲ発見スル基礎ナレハナリ則左ノ如シ

一 本人若クハ父母等ノ誕生年月ヲ塗抹或ハ刮取之ヲ改竄スルモノ

一 送籍年月分家絶家再興年月退隱若クハ廢嫡年月ヲ第一項ノ如ク改竄スル者

一 戸籍用紙ノ新キ者

一 檢査時限内下檢査巡行后ニ係ル異動者

一 付箋等ヲ以テ送入籍其他異動ヲ記スル者

一 戸籍上姓名アリテ其身分誕生登記ナキ者

第一項誕生ヲ改竄スル者假令十六年適齡者〔文久二年二月生〕ヲ元治元年トシ下檢査巡回后之ヲ剗キ取り翌年調査ニ際シ又十六年適齡ナラシメ或ハ適齡ノ期ヲ前後ニシテ免役名称ヲ得ントシ就中父母誕生ノ如キハ五十歳未満ヲ五十歳以上ナラシムル等ノ弊害ナキ能ハス

第二送入籍年月等徴兵令改正后ニ係ル者ヲ其以前ノ年月ニ改竄スルノ類アリ第三ノ如キハ第一第二ノ奸策ニ較レハ大ニ調査ヲナスニ難カラス何トナレハ本県戸籍ハ大抵明治十年一月改正ニ係ルヲ以テ之ニ新紙ヲ挿入スルモ其新ヲ掩フ能ハサレハナリ第四ノ異動者ハ下檢査巡行前ノモノヲ巡行后ノ異動トナサンカ為事務官巡行終ルヲ待テ戸籍ニ登記スル情状ナキヲ保セス故ニ是等疑訝ノ輩ヲ調査スルニ多クハ届洩ナリ而シテ其届漏応徴者ノ情態ヲ探クルニ徴兵適齡若クハ免役名称ヲ罷メタル当時届漏トナルモ発露ノ際先入兵トナルニ過キサルヲ以テ万一ヲ憍倖セントスルノ弊ナシトセサルナリ第五付箋ニ送入籍等記スルモノハ前半調査ニ莅ミ之ヲ削キ取り調査ヲ免レントスルモノアリ或ハ否ヲサルモ応徴身分ニシテ前年調査セシ付箋ノ貼

痕ナキハ適齡當時之ヲ抜キ后亦編入シ或ハ其年販籍セシモノヲ前年ニ廻リ某年月販籍ト記スル等ノモノ尠カラス第七誕生年月等記入ヲナサスシテ適齡或ハ常備年期罷名稱等ノモノ往々アリ故ニ之等ハ最モ緻密調査ヲ加フルモノトス

第二 戸籍照較

戸籍照較ハ其法左ノ如シ

甲 戸籍点檢者

乙 国民軍ノ外免役壯丁名簿ト平時免役届書ヲ持スルモノ

丙 平時免役壯丁名簿ト徵集届書ヲ持スル者

丁 徵集壯丁名簿ト国民軍ノ外免役届書ヲ持スル者

戊 国民軍名簿ト年齢計算表ヲ持ツ者

抑モ戸籍照較タルヤ甲戸籍ヲ点檢シ照較ヲ要スルトキハ之カ免否ヲ決シ若シ決シ難キモノハ衆議ニ決ス而シテ某長男国民軍ノ外免役ト甲呼ハ丁其声ニ応シテ其届書ヲ朗誦シ以テ戸籍及戊ノ国民軍名簿ニ照較ス朗誦竣ルヤ否ヤ戊其父兄年齢ヲ計算何年何月ト呼ヒ免役ノ印ヲ国民軍名簿備考欄内ニ捺押ス而シテ甲ハ同時戸籍ニ貼紙アル付箋ニ圈点ヲ画ス若シ乙丙ノ名簿ニ符合シ丁戊ノ名簿ニ齟齬スルトキハ甲ハ其要領ヲ戸籍ノ付箋ニ記シ以テ質問ノ材料トス

第三 質問

前条戸籍照較上ヨリ起ル不明ノ件中届洩ト認ムルモノ或ハ年齡改竄等ノ者ハ前年名簿或ハ質問録ニ拠リ精細調査ヲ遂ケ尚不明ナルトキハ質問録ヲ製シ精覈ヲ得ルヲ要ス但質問書ハ郡区长ニ付シ其答弁ヲ得ルモノナリ従前ノ実査ニ拠ルニ由是徵集者ヲ發見スルモノ幾ト其年ノ十二分ノ一二ニ居レリ

第四 送籍地調査

送籍地調査ハ仮令ハ甲郡ヨリ乙郡ニ送籍スルモノハ乙郡巡行ノ際之ヲ調査ス亦乙郡ヨリ更ニ丙郡ニ養子等ニ送籍セシモノハ之ヲ丙郡ニ調査シ以テ其結果ヲ見ルヲ要ス然ルニ連年ノ經驗ニ拠レハ往々入籍セス或ハ送籍包懐シ遂ニ発露スルモノ尠カラス

右之通 但為御参照前年徵員増減表ヲ相添候

徵兵人員概算表

一 千六百五十人
 右八十六年徵兵
 千八百三十九人 十七年徵兵

内

南多摩郡	百八十人
津久井郡	七十人
北多摩郡	百三十人

西多摩郡	百八十人
都筑郡	八十六人
橘樹郡	百三十人
横浜区	五十人
足柄下郡	百二十人
足柄上郡	百三十人
大住海綾両郡	二百十三人
高座郡	二百二十五人
鎌倉郡	九十人
愛甲郡	七十人
久良岐郡	四十五人
三浦郡	百二十人

差引十六年ヨリ増員凡百八十九人

勸業ノ状況

勸業ノ事ハ米麦其他共進会ヲ勸誘シテ漸々民智ヲ發達セシムルヲ主トシ別ニ民業ニ干渉セサルモノ、如シ

土木起功ノ状況

道路河川橋梁修繕開鑿等ニ就テハ官民トモ尽力セサルニアラスト雖モ仍ホ著シルシキ功績アルモノ稀レナルカ如シ別紙県庁ヨリ差出タル現況書ヲ付シテ閱覽ニ供ス

土木起功ノ現況

一 横浜区内字野毛坂道路切下ケ事業

此ハ東海道橋樹郡ヨリ横浜港ニ至ル開港以來之本道タリ該線路中戸部町ト野毛町トニ係ル字野毛坂ハ峻險ナラサルモ通行不便ナルヨリ多クハ此線ニ依ラスシテ北方紅葉坂ニ迂回ス故ニ本阪路長百九十九間ノケ所高キハ貳拾六尺ヲ切下ケントス而シテ其業竣ルノ后チハ勾配壱間ニ三寸以内ニシテ車馬十分ニ往来シ得ルノ経画ナリ其工費ハ九百三拾六円八拾五錢八厘外ニ切下ケヨリ生シタル土砂ノ他ニ要スル処アルカ為メニ用所ヨリ土砂運搬費トシテ支出スル金千八百貳拾七円貳拾四錢ナリ

一 相模国三浦鎌倉両郡内道路開鑿事業

此ハ三浦郡浦賀横須賀地方ヨリ東浜ヘハ海路一方ノ便アルノミニテ他ハ悉皆山岳ニ隔テラレ本県中最モ通行ノ不便ナルヨリ有志者ニ於テ道路ノ開鑿ヲ謀リ三浦郡久木村ヨリ鎌倉郡大町村ニ至ルノ間タ長七百余間ヲ開鑿シ而シテ字名越坂及名越谷戸ノ式ケ所ハ峻山ナルヨリ茲ニ長九拾間ノ墜道ヲ開鑿セントスルノ法案ニシテ其

工費ハ金四千円余ナリ

一 県下川々堤防修築事業

此ハ多摩川相模川酒匂川其他川々明治十五年ノ秋季ノ出水ハ近年稀ナル洪水ニテ為メニ堤防破壊ノケ所不少殊ニ水刳ノ如キハ十ノ七八ハ流失ス其旧復スヘキ工費ハ拾四万九千三百拾九円トス然レトモ地方費及ヒ協議費支出ニ限リアルヨリ本年度ニ在テハ地方費ヨリハ金四万円ヲ補助シ其他ハ従来堤防修繕ニ関係アル町村ノ地価五百分一ノ協議費トヲ併セ前述破損ノケ所ニ就キ最モ急ヲ要スル部分ヲ修メ其他ハ十六年度ニ之ヲ譲ル且従来本県堤防修築ノ方法タルヤ一時ノ防禦ニ備ヘルモノニ過キササルヨリ漸次方法改良ノ見込ヲ以テ内務省土木局ト協議ヲ遂ケ多摩川筋北多摩郡谷保村及橋樹郡菅生村地内ニ於テ目下刀根川等ニ施ス所ノ芝工ニ着手セリ

一 横浜外国人居留地下水路改造ノ事業

此居留地下水構造ニ就而者其区別ヲ三区ニ別ツ其第壹区ハ沼地ヲ墳埋シ新居留地トナシ其際ニ構造セシ下水管ハ完全ナラサルモ稍流通ニ障碍ナキヲ以テ之ハ暫ク現在ノ儘圍クモ第二第三ノ(旧居留地ト云ケ所ニ該ル)二区ハ其起業タル明治三年ノ施行ニ係リテ下水管ノ口徑七寸亦ハ五寸ナルモ其第二区ノ部ニ至テハ路傍ニ雨

水ト汚水ト合流セシメテ堀川ニ注入スヘキ石造樋ノ存在シアルト二区ト三区トノ地盤ニ高低アルカ故ニ一時ニ之カ連帶ノ工業ヲ施為セントスルハ事業モ不容易ニシテ其工費モ亦巨額ニ渉ルヲ以テ是ヲ区分シテ他日ニ譲ル然ルニ第三区ニ至テハ全部中央ノ管タル七寸ト五寸トノ口徑ニシ雨水ノミニテモ疏通シ難キニ尚ホ居住者ヨリ注流スル所ノ汚水ノ管ヲ之ニ接続ス故ニ悪水渋滞シテ終ニ路傍及ヒ各館内ニ淤溜スルノ憂ヲ招クニ至レリ仍テ此三区ノ地盤高低ヲ測定シ雨水汚水ノ量ヲ算出シ別紙図面ノ如ク構造ノ法案ヲ定メ明治十四年十二月業ヲ起シ目下九分ノ出来形ナリ其工費ハ金八万余円ナリ

土木起功セントスルモノ、件

一 甲州街道開鑿之事業

是ハ東京府ヨリ山梨県ヘ至ルノ街道ニシテ其間県下ニ属スル字小仏峠ノ阪路アリ其峻険ナル実ニ単身徒步ト雖モ困難ヲ極ムルノ悪路ナルヨリ津久井郡小淵村ヨリ南多摩郡上柵田村ニ至ル道路ヲ開鑿修理スルトキハ大ニ便ヲ得ルヲ以テ此工費ヲ概算スルニ金拾八万千六百四拾七円七拾七錢五厘ヲ要ス乃チ寄付金地方税ヲ併セ国库ノ補助ヲ請ヒ事業着手セントス目下夫々取調中ニ係ル

一 東海道阪路開鑿事業

是ハ程ケ谷戸塚兩駅間ニ三岐路アリ車馬通行ノ不便不勝ヨリ之ヲ
開鑿セントス其工費ハ壹万三千七百七拾円九拾三錢壹厘ニシテ即
チ寄付金地方税国库補助費(目下請)ヲ併セ開鑿着手セントスル所
ナリ

一 同箱根車道開鑿ノ事業

是ハ延長九千九百九拾七間ヲ開鑿シ延長四千六百四拾九間半ハ旧
道ニシテ修繕ヲ加フルノ見積リナリ其工費概算拾二万四千余円ニ
シテ成功ノ上ハ四十ヶ年間通行ノ人車馬ヨリ道錢請求スヘキノ見
込ヲ以テ發起人東京府平民田中金兵衛外十数名ヨリ本県并ニ静岡
県へ出願セリ仍テ当今其筋へ稟議中ニ係レリ

一 本県庁移転之件

是ハ本庁明治十五年十二月中焼失ニ付旧庁位置亦ハ尾上町旧外務
省出張所跡又ハ太田陣屋ノ議アルモ理論上ヨリ考案ヲ下セバ税関
ヲ買請クルニシカサルカ故ニ此議ニ決シ其筋ヨリ裁可ヲ経テ金八
万円ニテ買請ルノ約ヲ為ス而シテ移転ニ就テハ既馬車置所馬丁部
屋及ヒ焚所新築且間内模様替等ニ要スル費用ハ五千貳百拾貳円拾
錢ノ予算ナリトス但シ旧県庁敷地ハ公売ニ付シ地方費雑収入ニ組
込ノ計算ナリ

(朱書)
(付箋) 『本文図面ハ再ヒ面談之折可供電覽候』

警察本署

警察本署ヲ県庁内ニ置キ警部長署長トシテ事務ヲ總理ス署中ノ事務
大別シテ庶務視察紀律探偵會計ノ五掛ト為ス左ニ掲クル条件ハ県令
ノ裁可ヲ経テ処分シ他ハ署長専決施行ノ後報告スルモノトス但非常
重大ニ係ルモノハ此限ニアラス

第一条 違警罪目ヲ增加更正スル事

第二条 警察署及分署ノ位置ヲ変更スル事

第三条 巡邏方法并ニ巡查派出所交番位置變更又ハ廃立ニ属スル事

第四条 署中ノ諸掛ヲ廢置分合スル事

第五条 各署并郡区役所又ハ戸長役場ヨリ伺書ニ指令スル事

但特ニ例規アルモノハ此限ニアラス

第六条 外国ニ関スル事件ヲ処分スル事

但特ニ例規アルモノハ此限ニアラス

第七条 外国領事へ照会往復スル事

第八条 火薬石油其他危険物ニ係ル製造場等ノ事件ニ関スル事

第九条 警察上褒賞及救助料等ヲ賜給スル事

第十条 官院省へ稟議及庁府県へ照会往復スル事

但巡查身分上ニ係ルモノハ此限ニアラス

第十一条 各署ノ定員ヲ増減スル事

第十二条 警部以下ヲ管外ヘ巡遣スル事

但非常急遽ノ場合ハ此限ニアラス

第十三条 巡查雇ノ賞罰黜陟ニ関スル事

第十四条 臨時警察會議ノ事

第十五条 警察會議ノ議案ヲ調製スル事

第十六条 諸願届ニ指令スル事

但特ニ例規アルモノハ此限ニアラス

第十七条 警察上寄付物品ニ関スル事

第十八条 報告表ヲ調製スル事

第十九条 集會條例ニ関スル事

第二十条 警察上ノ經費ヲ予算及ヒ増減スル事

第二十一条 警察上ニ関スル金錢ヲ収支スル事

第二十二条 營繕ニ関スル事

第二十三条 新ニ事ヲ設ケ又ハ旧規ヲ變更スル事

第二十四条 劇場見世物及芸娼妓貸坐敷ノ創廢并ニ取締ニ関スル一切ノ事

第二十五条 旅客汽舟取締ニ関スル一切ノ事

第二十六条 港内取締ニ関スル一切ノ事

第二十七条 外国人ニ關係セサル内国難破船及漂流物ニ関スル一切ノ事

事〔難破船及漂流物等ニ付各官庁ト相互文書往復シ并ニ管内ヘ告示スルヲ除ク〕

第廿八条 洗湯及温泉營業ニ関スル一切ノ事〔洗湯及ヒ温泉營業者

ノ代替及改姓名願届ノ事ヲ除ク〕

第廿九条 風俗取締ニ関スル一切ノ事

各掛ノ分掌事務左ノ如シ (注二)

庶務係

事務條例第二条第四条第六条第七条第八条第九条第十条第十一条

第十二条第十三条第十七条第十八条第二十三条

銃砲取締規則ニ関スル事

警察上庶務一切ニ関スル事

劇場見世物及芸娼妓貸坐敷ノ創廢并ニ取締ニ関スル事

旅客汽船取締ニ関スル一切ノ事

港内取締ニ関スル一切ノ事

外国人ニ関セサル内国難破船及漂流物ニ関スル一切ノ事

洗湯及温泉營業ニ関スル一切ノ事

風俗取締ニ関スル一切ノ事

視察掛

事務条例第十九条

巡查勤惰ヲ查察監督スル事

各署事務ノ挙否ヲ注目スル事

集会演説劇場等へ臨監スル事

健康保護ノ事

紀律掛

事務条例第一条第五条第十條第十四条第十五条第十六条第二十二

条

警察上ニ関スル諸規則類起草ノ事

署中記録簿冊編纂保存スル事

署中書籍ヲ監守スル事

探偵係

事務条件第十條

警察上探偵一切ニ関スル事

會計掛

事務条件第十條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條

警察官費地方警察費警察庁舎建築修繕費及ヒ探偵消防費特置巡查

費ヲ出納スル事

巡查積金及警察上ノ寄付金ヲ出納スル事

違警罪犯者科料金及ヒ売淫等ノ罰金其他警察上ニ関スル雑収入金

ヲ取扱フ事

本署ノ予備金ヲ出納スル事

警察署金銭ノ出納及ヒ物品ヲ調査スル事

官没品及遺失物等ノ売却処分ナス事

巡查被服属具及ヒ用度ノ事

県庁各課管掌ノ事務ニシテ警察署ノ参与スルモノ左ノ如シ(注二)

庶務課事務ノ内

図書出版及写真出版并ニ新聞雜誌ニ関スル事

外国人ニ関係ナキ漂泊人ニ関スル事

外務課事務ノ内

外国船難破及外国人ニ関係アル漂流物ニ関スル事

外国人銃猟ニ関スル事

揮発物并ニ爆発物貯庫ニ関スル事

勸業課事務ノ内

獣医及家畜伝染病予防ニ関スル事

租税課事務ノ内

内国人銃猟ニ関スル事

諸舟車ニ関スル事

賦金ヲ徴収シ及其事務ニ関スル事

衛生課事務ノ内

医師製薬家薬舗薬商産婆ニ関スル事

売薬及薬湯ニ関スル事

病屍解剖ニ関スル事

顯狂院ニ関スル事

地方衛生会ニ関スル事

梅毒病院及梅毒検査所ニ関スル事

消毒所ニ関スル事

各地飲水検査及其改良ニ関スル事

販売ニ係ル飲食物検査ニ関スル事

飲食物及玩弄品ノ着色料其他顔料等販売ニ関スルコト

売水売水牛乳営業并ニ屠場ニ関スル事

道路側圍ノ廢置交換等ニ関スル事

汚物掃除及溝渠浚除ニ関スル事

但道路改良及沿道溝渠改良浚除ニ関スル事務ハ此限ニアラス

墓地及火葬場ニ関スル事

汚物揚卸場ノ査定ニ関スル事

伝染病ニ関スル事

土木課事務ノ内

道路橋梁修築下水撃浚ニ関スル事

道路掘穿等ニ関スル事

物品揚卸場ニ関スル事

警察区画

警察署六分署三十七アリ警部二十七人警部補二十八人巡查七百四拾

九人総人員八百五人ノヲ全県ノ戸数十五万九千五百六十一ニ比較ス

レハ百九十八戸余ニ付一人ノ割ニ当ル又人口八十万三千三百六人ニ比較

スレハ九百九十四人余ニ付警察吏一人ノ割ニ当ル

警察署ハ警部ヲ以テ署長ニ充テ本署長ノ指揮ヲ受ケ所轄内警察事務

ヲ施行ス其事務ヲ大別シテ庶務會計檢察掛治安裁判所々々内勤掛外勤

掛内外内訳ハ区内ト為ス管掌ノ事務左ノ件々ハ本署長ノ指揮ヲ受ケ

所分シ他ハ非常重大ニ係ルモノノ外専決施行スルモノトス

第一条 巡邏方法并ニ巡查派出所交番位置ノ変更又ハ廢立ニ属スル

事

第二条 新ニ事ヲ設ケ又ハ旧規ヲ變更スル事

前各項ニ記載セサルモ本署事務条件ニ掲タル条件ハ素ヨリ専行スル

ヲ得ス

各掛分掌事務左ノ如シ (注三)

庶務掛

違警罪犯ヲ処分スル事

巡查雇ノ進退賞罰ヲ具状スル事

巡查會議ヲ開ク事

巡查ヲ召募シ本署へ進退スル事

但横浜区内各署ハ本文ノ限ニアラス

集会条例ヲ取扱及集会演説所其他寄場等へ臨監シ其犯則者ヲ処分スル事

スル事

庁府県ノ各課裁判所管所警察所及郡区役所戸長役場等へ照会往復

スル事

警察取締規則ニヨリ営業者ヲ処分スル事

規則ニヨリ淫売ヲ処分スル事

罪囚ヲ押送スル事

拘留人疾病ヲ治療セシムル事

規則ニヨリ遺失物ヲ処分スル事

火災消防ニ関スル事

拘留人ニ差入物及通信并面會願ヲ許否スル事

監視ニ付セラレタル者ヲ処分スル事

巡查雇ヲ所管内ニ出張セシムル事

但管外ト雖モ通信及非常急遽ノ場合ハ本文ニヨル

探偵雇及小使ヲ進退スル事

戸口調査ノ事

報告表ヲ製シ翌月七日迄ニ本署へ通送スル事

警察上庶務一切ニ関スル事

署中ノ簿書ヲ編纂保存スル事

署中ノ書籍ヲ監守スル事

會計掛

各費ノ予算金及予備金ヲ収支スル事

罰金科料金及巡查積金雜收入金ヲ取扱フ事

毎月ノ仕払概算金ニ対スル勘定帳ヲ製スル事

各分署ノ予備金及ヒ用度品受払帳備付品台帳等ヲ監査スル事

巡查被服器具ヲ事故アリテ請求ニヨリ引替スル事

營繕用度等ニ関スル事

遺失物ヲ監守シ及ヒ売却処分スル事

警察分署長ハ警部警部補又ハ代理ヲ以テ之ニ充ツ所屬署長ノ指揮ヲ

受ケ部内警察事務ヲ執行ス管掌ノ事務左ノ二ヶ条所屬署長ノ指揮ヲ經テ処分シ其他ハ專決施行スルモノトス但シ非常及ヒ重大ノ事件ハ此限ニアラス

第一条 巡邏方法及巡査派出所交番位置ノ変更又ハ廢立ニ屬スル事

第二条 新ニ事ヲ設ケ又ハ旧規ヲ變更スル事

警察分署事務專掌

第一条 遺警罪者ヲ処分スル事

第二条 規則ニヨリ遺失物ヲ処分スル事

第三条 警察取締規則ニヨリ營業者ヲ処分スル事

第四条 監視ニ付セラレタル者ヲ処分スル事

第五条 所屬署長ノ批可ヲ得テ宥淫取締規則違犯者ヲ処分スル事

第六条 集会演説所其他劇場等へ臨監シ其犯則者ヲ処置スル事

第七条 罪囚ヲ押送スル事

第八条 拘留人疾病ヲ治療セシムル事

第九条 拘留人指入物及通信并ニ面会願ヲ許否スル事

第十条 巡査ヲ所轄内ニ出張セシムル事

但所轄外ト雖モ通信及ヒ非常急遽ノ場合ハ本文ニヨル

第十一条 庁府県ノ各課裁判所當所警察署及ヒ郡区役所戸長役場等

へ照会往復スル事

第十二条 諸費遣仕出書ヲ所屬署長へ差出スル事

第十三条 戸口調査ノ事

第十四条 報告表ヲ製シ翌月三日迄ニ所管警察署へ送付スル事

第十五条 署中ノ簿書ヲ編纂及ヒ保存スル事

第十六条 署中ノ書籍ヲ監守スル事

(注一、二、三) 原資料では一覽表となつてゐるが本書においては以

下のごとき体裁をとつた。

居留地警察署ノ狀況

居留地警察署ハ横浜区境町ニ在リ外国人ノ居留地一町ヲ管轄ス職員

ハ署長警部兼五等屬能勢辰五郎ヲ始メ警部補ニ至ル八名巡査二百三

拾三名等外御用掛五名内通弁三名 雇三名外国人羅卒一人瑞典國人十五年六

拾五円合計式百五拾八名アリ居留地総坪數三拾六万九百三拾三坪余

ヲ給スシテ外国人戸數十五年十二月三十一日ノ調査ニ依ル 六百九拾二戸人口三千五百拾二人

内男二千三百三十七人女三百八十八人其内英國人六百拾八人米國人二百五拾

五人清國人二千五百五拾四人独一人八人俄國人百拾八人以下各國人等百

人ニ上ナリ右外国人ノ現員及ヒ戸數ヲ以テ巡査定員ニ比較スルニ巡

査定員ニ付外国人員拾五人強ニ当ル戸數三戸弱ニ当ル抑居留地警察

上ニ就テハ県令殊ニ注意ヲ為シ務メテ外国人ノ信用ヲ厚シ我國權ヲ

冥々裡ニ擴張セント尽力ス故ニ署長其他各員ニ於テモ県令ノ意ヲ体

シ勉勤怠タルコトナク能ク其職ヲ尽クス然レトモ水夫其他卑賤ノ外人等我人民ヲ輕蔑シ暴行ヲ為スモノ続々之レアリ又ハ我國民罪ヲ犯シ外国人ノ家屋ニ逃匿スル等ノ弊アリテ警察官吏ハ甚タ多事ナルノミナラス時トシテハ処分上大ニ困難スルコトアリ茲ニ警察署長ヨリ提出セル刑事々故表ヲ付シテ参考ノ一斑ニ供ス

外国人ニ關係事故ノ部

外国人領事へ求刑セシ者 検事へ求刑セシ者 当署限り処分セシ件 日本人ヨリ外国人ニ係ル刑事事件 外国人ヨリ日本人ニ係ル刑事事件 脱艦水兵捕拿數 外国人ヨリ告訴其他來翰 盜難ニ罹タル家	十五年一ヶ年間 十六年上半ヶ年間	十六年上半ヶ年間
六拾五件 二拾四件 四拾五件 三拾三件 三拾九件 二拾六人 五拾六通 二拾三戸	四拾二件 拾件 五拾六件 二拾二件 拾八件 七人 百八拾二通 七戸	

日本人ニ關係事故ノ部

重罪犯 輕罪犯 違警罪犯 私娼犯	十五年下半年間	十六年上半ヶ年間
五件 百拾三件 八百四拾七件 百拾五人	五件 七拾五件 三百二拾七件 三拾一人	

新聞紙ノ狀況

新聞紙雜誌ハ管下ニテ發行スルモノハ外国新聞ヲ除クノ外之レ無シ
 (マニ) 京浜毎日新聞ハ近頃本店ヲ横浜ヨリ東京ニ移セリ而シテ県下人民ノ購読スル新聞紙ハ東京ニテ流行スル諸新聞紙ナリ就中京浜毎日新聞
 昏輸入ノ數最モ多シト云フ

政談演説ノ狀況

本県ハ東京ニ接近スルヲ以テ都下ノ演説者更々來テ演説会ヲ催シ人民ヲ誘動ス而シテ其場所ハ重ニ横浜港武州八王子相州高座郡上溝村小田原駅藤沢駅五ヶ所ニシテ横浜ヲ以テ第一トス八王子之ニ次ク一ヶ月開會度數異同アリト雖モ多キハ拾度少キモ五六度ニ下ラス
 令 飯 八十度開會アレハ横浜ニ五度八 弁士ハ多ク東京ヨリ來ルモノニシテ就 王子ニ四度他ハ算スルニ足ラス
 中重立タルモノハ別紙ノ通りニ有之其他県下人民ニ在テハ島田三郎 肥塚龍大塚成吉今村角太郎等ヲ巨擘トシ其余ハ多ク代言人等ニ係レリ東京ヲ除クノ外他ノ府県ヨリ來テ演説スル者甚タ稀ナリ傍聽人ハ大抵商人多シ近來輕躁過激ノ演説無之概ネ自由改進黨ニ於テ互ニ 党社ノ是非如何ヲ甲論シ乙駁スルノミニシテ先ツ穩カナリ而シテ彼ノ自由改進黨相駁撃スル以來聽衆ハ非常ニ増加シ目下頗ル盛大ノ 景況アリト雖モ是レ蓋シ一時人心ヲ聳動スルニ足ルノ演説タルカ故

ニ然ルモノナラント思量セラル

自由党演説者中重立タルモノ

宮部 襄
 内藤 魯一
 北田 正董
 大井 憲太郎
 星 亨
 古沢 滋
 末広 重恭
 細川 憫
 植木 枝盛
 高橋 基一
 城山 静一
 西村 玄道
 馬場 辰猪
 土居 光華
 赤羽 万次郎
 鈴木 舎弟

〔朱書〕
当県大住郡南金目村寄留

改進黨演説者中重立チタルモノ

小室 信介
 井上 徳太郎
 府川 謙齋
 今村 角太郎
 井田 忠信
 島田 三郎
 肥塚 龍
 沼間 守一
 青木 匡
 尾崎 行雄
 藤田 茂吉
 飯塚 銀弥
 堀口 昇
 角田 真平
 志摩 万次郎
 波多野 伝三郎
 高梨 哲四郎
 砂川 雄俊

〔朱書〕愛甲郡三田村平民
 〔朱書〕高座郡藤沢駅平民
 〔朱書〕当港寄留
 〔朱書〕当県平民
 〔朱書〕全

〔(朱書) 横派寄留〕

小野 梓
大塚 成吉

政党ノ状況

本県管内ニハ認可ヲ与ヘタル政党無之政事ヲ談スル輩ハ総テ東京ノ改進自由両党ニ加盟ス而シテ其加盟スル者ハ概ネ平民ナリ然シテ明治十五年中迄ハ僅々八拾二名ノミナリシカ本年ハ未タ半歳ヲ經過セサルニ八拾式名ノ多キニ至ル本年分ハ漸次加盟シタルモノヲ通知ノ節ニ本年分トス其原由タルヤ人民政事思想ノ智ニ富ンテ然ルニアラス是果シテ両党遊説勧誘スルノ然ラシムル処ナリト思量セラル然而該黨員タルヤ当港ニ少ク却テ武州西南北三多摩郡ニ多シ今其理由ヲ考フルニ当港ハ人民輻輳人家稠密且ツ五港ノ一ニ位スル都会ニシテ商業繁劇唯タ営利ノ間ニ奔走スル輩多クシテ素ヨリ空談理論ニ従事スルノ暇ナキノミナラス政事上ノ思想ニ乏シキ者多ク稀レニ加盟スル者アルモ生計ニ裕ナル者或ハ代言人社会ノ者ニ止レリ而シテ彼ノ輩等ノ思想ヲ探知スルニ敢テ確乎不拔ノ精神アツテ加盟スル者ニアラス概ネ世間ニ榮譽ヲ需メントシテ加盟スル者ト云フテ可ナリ又武州三多摩郡ノ如キハ尤モ東京ニ接近スルヲ以テ政談弁士等交モ往復煽動スルニ原因シ自然無智ノ人民等加盟スルニ到リシト察セラル他各郡ハ大

同小異ナリ警察署ニ於テ取調タル政党人員左ノ如シ

神奈川県下政党人員及党派取調書

地名	自由党	改進黨
横濱	十六人	十二人
久良岐郡	壹人	〇
橘樹郡	壹人	〇
都筑郡	九人	〇
南多摩郡	四十三人	三人
西多摩郡	十七人	壹人
北多摩郡	二十八人	三人
津久井郡	三人	〇
高座郡	五人	〇
愛甲郡	九人	〇
大住郡	四人	〇
海綾郡	三人	〇
鎌倉郡	三人	〇
足柄下郡	〇	壹人

計人員百六拾四人

内

自由党 百四拾人
改進黨 貳拾四人

犯罪ノ状況

神奈川県下ノ犯罪ハ相模地方ニ少フシテ武蔵地方ニ多シ而テ其種類中最多キモノハ詐欺偽取財富籤購買竊盜賭博之二次クモノハ強盜紙幣偽造等トス

監獄ノ状況

監獄ハ横浜戸部町ニ本署ヲ置キ横浜横須賀小田原八王子ノ四ヶ所ニ支署ヲ置ク本年八月十日現在横浜監獄署ニ已決六百六十四人内男二百三十九人女未決百四十一人男二百二十六人女十五人已決囚ノ就役ハ七宝焼米搗竹工紙漉織工桶工大工裁縫薬工莫大小工染工雑役外役等トス横浜支署ハ未決男九十三人女ナシ横須賀支署ハ已決男百五十九人アリ小田原支署ハ已決男十二人女二人未決男十八人王子支署ハ已決男十人女二人未決男七十一人女二人右合計已決千六百六十六人之ヲ全県ノ人口八十万三百六人ニ比較スレハ六百八十六人三分六厘余ニツキ囚徒一人ノ割ニ当ル亦少ナシト云ヘカラス爰ニ監獄本署ヨリ提出セル現在已決囚人ノ數男女ノ内訳及ヒ処刑ノ種別表明治十五年申及十六年六月迄ノ毎月末在監ノ已未決總表十四年度在府獄囚徒費一覽表十五年度在府獄囚徒費予算一覽表十四年度監獄収支一覽表十五年度監獄収支予算一覽表四葉ヲ付シテ電覽ニ供ス

(注)別表欠。

裁判所ノ状況

横浜始審裁判所及ヒ同裁判所小田原八王子ノ兩支庁横浜治安裁判所小田原治安裁判所八王子治安裁判所ノ状況左ノ如シ

横濱始審裁判所民事事件數明治十五年中八百四十三件内已決七百五十七件未決六十六件

十六年一月ヨリ五月ニ至ル三百四十三件内已決二百三十四件未決九十九件 又控訴件數

十五年中七十七件内已決六十一件未決十六件 十六年一月ヨリ五月ニ至ル五十六件

内已決四十二件又輕罪ハ十五年中總件數千二百九十二件内已決千二百五十七件未決四十五件

十六年一月ヨリ五月ニ至ル五百九十二件内已決五百四十四件未決四十八件

又重罪總件數ハ十五年中三十六件内已決三十六件未決零件

又予審總件數ハ十五年一月ヨリ五月ニ至ル三十五件内已決二十六件未決九件

又予審總件數ハ十五年一月ヨリ五月ニ至ル三百九十八件内已決三百三十三件未決六十五件

又民事訴訟申外國交涉件數ハ十五年中四十八件内已決四十一件未決七件

十六年一月ヨリ五月ニ至ル拾八件内已決十二件未決六件

小田原支庁〇欠ク

八王子支庁〇八王子支庁ハ十六年二月ヨリ開序ニ付十五年ノ件數ナシ

十六年自二月至七月二百二十五件控訴十一件又輕罪ハ十六年一月ヨリ六月ニ至ル百五十六件又予審ハ十六年二月ヨリ五月ニ至ル百八

件ナリ

横浜治安裁判所○勸解ハ十五年中老万八百三十件十六年一月ヨリ五月ニ至ル五千二百七十九件ナリ

小田原治安裁判所○民事事件数明治十五年中七百三十五件内已決六百九十九件十六年一月ヨリ五月ニ至ル四百六十件内已決三百八十八件未決七十二件又勸解

ハ十五年中五千八百一十一件十六年一月ヨリ五月ニ至ル二千八百四十五件又輕罪ハ十五年中二百四十八件已決二百四十四件未決四十四件十六年一月ヨリ五月ニ至ル四百四十七件已決四百四十一件未決六件ナリ

八王子治安裁判所○民事事件数十五年中二千六百九十五件十六年一月ヨリ七月ニ至ル千六百九十三件又勸解ハ十五年中一万九百三十四件十六年一月ヨリ五月マテ六千二百四十四件又輕罪ハ十五年中三百四十三人已決十六年一月ヨリ八月ニ至ル二百四十二人已決ナリ

県会ノ状況

管内本籍ノ者人口總計七十四万八千六百三十八人ノ内撰挙権ヲ有スル者三万三千八百八名アリ即チ人口二十二人六分ニ付撰挙人一人ノ割ニ当ル被撰挙権ヲ有スル者一万五千三百八十名總人口四十六人五分余ニ付一人ノ割ニ当ル議員五十七名皆平民ニシテ士族ナシ区部常置委員五名郡部常置委員七名ヲ置ク議員中最モ納税額ノ多キモノハ横浜伊勢町海老塚四郎兵衛ニシテ金二百六十二円八十五錢ヲ納ム議長

ハ福井直吉ナリ議員中島田三郎肥塚籠其他改進黨員多ク動モスレハ妄リニ減額論ヲ主張シ事業ノ進歩ヲ妨クルノ景況アリ乃チ本年通常會ニ於テモ原案總額金六十万三百四十三円九十六錢六厘ノ所金六万九千三百十二円三十二錢七厘ヲ減少セリト云フ然レトモ県令悉ク認可ヲ与ヘ議事穩便ニ結了セリ爰ニ明治十五兩年度地方稅收入予算決議額比較増減表十五兩年度原案増減表十六年度地方稅支出予算決議額比較増減表十五年十六年度原案予算増減表十六年収入予算決議案比照増減表十五年度十六年度原案増減表十六年度地方稅支出予算原案同決議対照表ヲ付シテ參看ニ供ス

明治十五
十六兩年度地方稅收入予算決議額比較増減表

費目	十 六 年 度		十 五 年 度		增 比	較 減
	金額	前年度	金額	前年度		
地 租 割	一七二、七〇四 ^(四)	三八四	一五三、九九六 ^(四)	三三三	一八、七〇八 ^(四)	〇五一
營 業 稅	八三、三〇一	〇六八	九五、二三一	四九四		一一、九三〇
雜 種 稅	四四、六三四	三九〇	四五、七一一	五一五		一、〇七九
戶 數 割	六六、六〇四	六四〇	三七、五六二	〇六一	二九、〇四二	三、二五〇
雜 入	八八、四四一	五七九	九二、六九一	六三六		〇五七
國 庫 下 渡 金	六八、四四八	五一一	六五、四七五	九九七		
前々年度繰越金	五、八九七	〇六七	七〇、一九七	九九七	二、九七二	六四、三〇〇
前年度繰越金			一三、八三〇	八九六		一三、八三〇
合 計	五三一、〇三一	六三九	五七四、六九九	九〇六	五〇、七三三	九四、三九一

明治十五
十六兩年度地方稅支出予算決議額比較増減表

支出科目	本 年 度		前 年 度		增 比	較 減
	金額	前年度	金額	前年度		
警 察 費	一三四、八九二 ^(四)	八九八	一二四、〇一二 ^(四)	三三三	八八〇 ^(四)	五七五
警察庁舎建築修繕費	二一、七一一	三一三	九、七一六	九九五	二一、〇〇〇	三一八
土 木 費	三一、三五七	六九七	三四、三三八	九七一	九〇三	六四〇
区町村土木補助費	四二、六三一	四九〇	四一、七二七	八五〇		二、九八一
區 議 諸 費	一一、一九三	〇八五	一一、八〇一	〇六八		一、六〇七
衛生及病院費	一二、六四〇	六八五	一四、二〇四	七四三		一、五六四
教 育 費	八、四四七	七三〇	八、二八五	一六八	一六二	五六二
区町村教育補助費	五〇〇	〇〇〇	二四、六八三	〇〇〇		二四、一八三

十六年收入予算卜決議案比照増減表

科 目	原 按	決 議		比 照	
		増	減	増	減
地租	一九〇、六〇四 ^(四)	一七二、七〇四 ^(四)	三八四	一七、八九九 ^(四)	六五八
營業稅	八七、九八六	八三、三〇一	〇六八	四、六八五	一三三
雜種稅	四四、四一一	四四、六三四	三九〇		
戸數稅	一一五、六七五	六六、六〇四	六四〇	二二三	二〇〇
雜收入	八五、七九二	八九、四四一	五七九	三、六四九	四九、〇七一
國庫下渡金	六九、九七七	六八、四四八	五一一	三三三三	二一五
前々年度繰越金	五、八九七	五、八九七	〇六七		一、五二八
合計	六〇〇、三四三	五三一、〇三一	六三九	三、八七二	七三、一八四
			五三三		八六〇

十五年度十六年度原按増減表 支出ノ部

科 目	十 六 年 度	十 五 年 度	比 較	
			増	減
警察費	一二九、九九九 ^(四)	一二六、五一〇 ^(四)	三、四〇九 ^(四)	七二八
警察庁舎建築修繕費	二二、三一五	二〇、三二九	二、九八五	八四二
土木費	四二、六四六	六五、六四九	二、九八五	八四二
区町村土木補助費	四八、五〇八	八、八八七	三九、六二一	五六五
衛生及病院費	一四、九〇三	二四、〇三九	八四八	
教育費	九、一四三	一五、〇三二	九七七	
区町村教育補助費	一三、一八四	三〇、三一九	八〇〇	
県會議諸費	一三、三一八	一二、三六三	三四五	
郡区吏員給料旅費及	五〇、四九三	六一、六六一	九五四	七〇二
庁中諸費	二七七	七八八		一一、一六八
				五一

第3章 三新法体制

科 目	本 年 原 按	全 決 議		增 比		較	
		一	二	一	二	一	二
警察	一二九、九一九	一二四、八九二	八九八	〇	五、〇二六	八六二	
警察庁舎建築修繕費	二三、三一五	二一、七一一	三一三	〇	一、五九八	一八〇	
土木	四二、六四六	三一、三五七	六九七	〇	一、二八九	〇二〇	
区町村土木補助費	四八、五〇八	四二、六三一	四九〇	〇	五、八七七	一六三	
衛生及病院費	一四、九〇三	一二、六四〇	六八五	〇	二、二六三	〇一二	
教育	九、一四三	八、四四七	七三〇	〇	二、六九五	六四〇	
区町村教育補助費	一三、一八四	一〇、五〇〇	〇〇〇	〇	一、二、六八四	五〇〇	
県會議諸費	一三、三一八	一一、一九三	〇八五	〇	二、一二四	九六二	

明治十六年度地方税支予算原按全決議対照表

戸長以下給料及戸長職務取扱諸費	九七、六〇七	一〇二	九二、七三八	一五八	四、八六八	九四四	二五二	〇〇〇
浦役場及難破船諸費	一〇五	四九四	三五七	四九四			一六九	五五七
救育費	二、四五〇	二六五	二、六一九	八二二			四一八	九三五
諸選書及揭示諸費	四、一四一	九六六	四、五六〇	九〇一				
県庁舎建築修繕費	三四、三四九	八一	二、一一一	八三四	三三、二二七	九七七		
郡区庁舎建築修繕費	四五四	八四七	八四〇	〇〇〇	一〇、七六六	八五六	三八五	一五三
監獄	七八、一六四	六六四	六七、三九七	八〇八	四、六二四	七六二	四、八一七	三八〇
監獄建築修繕費	九、一九二	六九九	四、五六七	九三七				
勸業	二二九	六〇〇	四、八一七	三八〇				
地方稅取扱費	三、七五三	八七六	二二九	六〇〇				
地方郵便費	二四、四六〇	一二八	一一、六一二	一一〇				
合計	六〇〇、三四三	九六六	五五六、六五六	六六七	一一、八四八	〇一八	七二、三七三	九七一

郡区吏員給料旅費及 序中諸費	五〇、四九三	二七七	四六、二五四	四七九	〇	四、二三八	七九八
戸長以下給料及戸長 職務取扱諸費	九七、六〇七	一〇二	九七、一一三	一〇二	〇	四九四	〇〇〇
浦役場及難破船諸費	一〇五	四九四	八八	〇二五	〇	一七	四六九
救育費	二、四五〇	二六五	二、〇五六	一五三	〇	三九四	一一二
諸達書及揭示諸費	四、一四一	八六六	四、一〇八	八四三	〇	三八	〇七三
県庁舎建築修繕費	三四、三四九	九六一	三四、〇八四	八四〇	〇	二六四	一三一
郡区庁舎建築修繕費	四五四	八四七	三〇七	三〇〇	〇	一四七	五四七
監獄	七八、一六四	六六四	七二、三八七	一六〇	〇	七七七	五〇四
監獄建築修繕費	九、一九二	六九九	六、三〇八	二八〇	〇	二、八八四	四一九
地方税取扱費	二二九	六〇〇	二二九	六〇〇	〇		
地方郵便費	三、七五三	八七六	三、七五三	八七六	〇		
予備費	二四、四六〇	一二八	一〇、九六四	〇三三	〇		
合計	六〇〇、三四三	九六六	五三一、〇三一	六三九	〇	六九、三一二	三二七

町村会ノ狀況

町村会町村連合会土木町村会等ハ各郡開会スル所多シ茲ニ一二会ノ規則ヲ付シテ參看ニ供ス

津久井郡連合会規則

第一章 総則

第一条 連合会ハ全郡連合会数町村連合会ノ二種ニ分ツ

第二条 全郡連合会ハ郡内一般ノ公共ニ関スル事件及其經費ノ支出

徵集方法ヲ議定シ数町村連合会ハ該町村ノ公共ニ関スル事件及ヒ

其經費ノ支出徵集方法ヲ議定ス

第三条 連合会ハ予メ会期ヲ定メス臨時之ヲ開クモノトス

第四条 全郡連合会ハ数町村連合会ヲ論セス會議ノ議案ハ郡長又ハ

連合町村戸長協議ノ上之ヲ發ス

但開会ヨリ少クモ三日以前ニ頒布スルモノトス其時期ニ依リ至

急ヲ要スルトキハ此限りニアラス

第五条 連合ノ評決ハ議長ヨリ議案ヲ發セシ郡長又ハ戸長ハ届出郡

長又ハ戸長ハ之レヲ連合町村ヘ公告セシ上施行スルモノトス

第六条 連合会ニ於テ第二条ニ関スル事項ニ付キ議員ヨリ意見書ヲ